

平成27年度
事業計画書

平成27年4月1日から
平成28年3月31日まで

公益財団法人 立山カルデラ砂防博物館

1 基本方針

- (1) 「立山カルデラの自然と歴史」及び「砂防」の二つのテーマを、「知られざるもうひとつの立山」と位置付け、博物館活動を通して広く紹介する事業を積極的に展開する。
- (2) 「立山・黒部」世界文化遺産登録へ向けて博物館の視点から積極的な情報発信を行う。
- (3) 立山黒部アルペンルートの玄関口に立地することから、要望が多い立山の風土を紹介する展示等の事業を行う。

2 重点ポイント

北陸新幹線の開業により、来館者の増加が見込まれることから、①新幹線開業記念企画展の開催、②世界遺産登録に向けた外国人次対応の充実を重点に、さらに積極的な博物館活動を展開する。

3 展示事業

(1) 常設展示

立山カルデラの自然と歴史及び砂防を体系的に展示・紹介する。団体客に対しては、学芸員等が来館目的に沿った解説を行う。

① 大型映像ホール

3D映像の投影 「立山カルデラ 大地のドラマ」、「崩れ」

② 立山カルデラ展示室

立山カルデラや立山の自然と歴史を展示

③ SABO展示室

立山カルデラの砂防事業を展示

④ 砂防展示コーナー

世界文化遺産登録に向けて立山カルデラの砂防施設(白岩砂防えん堤等)、最近の砂防や土砂災害についての情報等を展示

(2) 企画展、特別展

① 巡回展「立山を愛した画家・大島秀信展ー富山県立近代美術館収蔵作品によるー」

4月18日(土)～5月17日(日)

立山を深く愛し、自然と文明の関係を問い続けた画家・大島秀信氏の作品を紹介する。

② 土砂災害防止月間特別展「44災ー集中豪雨と土砂災害ー」

5月30日(土)～7月12日(日)

昭和44年8月に富山県内を襲い近年では最大の被害をもたらした豪雨災害を振り返り、近年増加している短時間豪雨と土砂災害について考える機会とする。

③ ㊦北陸新幹線開業記念 企画展「立山、大地の公園を歩こう！」

7月18日（土）～9月27日（日）

世界的にも特色ある立山の自然について、地形地質、火山、氷河、動植物等のおきのおき観察ポイント、観察コースを学芸員の視点から詳しく紹介し、立山の自然の特異性や価値についての認識を深める機会とする。また、昨年認定された立山黒部ジオパークについてもあわせて紹介する。

④ 特別展「新湯－立山カルデラの神秘の池－」

10月3日（土）～12月26日（土）

国の天然記念物に指定された立山カルデラの新湯についてその特色や歴史を展示し、あわせて近年起きている変動についても紹介する。

⑤ 写真展「素晴らしい自然を」

1月9日（土）～2月10日（水）

日頃から自然に接している自然保護協会の会員の皆さんが感じた自然の素晴らしさや大切さを表現した写真を紹介する。

⑥ 特別展「映像でみる立山・立山カルデラ・砂防」

2月13日（土）～3月6日（日）

大災害をもたらす自然現象をとらえた貴重な映像や、土砂災害防止のため日々行われている砂防事業に関する映像、立山の特異な自然についての映像等を紹介する。

⑦ 公募写真展「レンズが見た立山・立山カルデラ ー大地と人の記憶ー」

3月12日（土）から4月10日（日）

立山や立山カルデラ、常願寺川一帯の大地や人の営みをテーマに、魅力ある作品を集めて紹介する。

4 立山カルデラ砂防体験学習会

博物館の野外ゾーンである立山カルデラを実際に訪れて、立山カルデラの自然や歴史、砂防事業について体験しながら理解を深めてもらう体験学習会を、国土交通省立山砂防事務所の協力を得て実施する。

平成25年度より実施している、砂防の背景である常願寺川流域全体の特徴的な自然、過去に起きた災害や砂防工事の歴史等を組み合わせ、流域全体として世界文化遺産登録を理解してもらうコースを、継続して実施する。

(1) 実施時期 7月～10月

(2) 実施回数 46回

① トロッココース 27回（個人14回、トロッコ団体13回）

② バスコース 16回（バス6回、文化遺産6回、常願寺川下流4回）

③ バスコース（団体専用） 3回

(3) 解説員 富山県砂防ボランティア協会、立山神通砂防スペシャルエンジニア、博物館ボランティア解説員

5 「立山・黒部」世界文化遺産登録に向けての情報発信

- (1) ①外国人への情報発信の充実（3D映像・2F常設展示の英語、台湾語対応）
- (2) 大型映像装置（103インチ）による映像「立山・黒部 世界遺産に向けて」をエントランスホールにおいて常時放映
- (3) 常願寺川流域全体の世界的に見ても特色ある自然・歴史・砂防の事象について、博物館の視点から総合的に解説した冊子「常願寺川の自然と人」を配付
- (4) 世界文化遺産登録に向けて白岩砂防えん堤等を2階に砂防常設展示コーナーを設けて常時紹介
- (5) 「『立山・黒部』を誇りとし世界に発信する県民の会」との連携による講演会等の実施
- (6) 立山カルデラや砂防を解説した「立山カルデラたんけんブック」を小学生に配付

6 普及事業

- (1) 学校行事における児童生徒の利用促進
飛越大地震やその影響による常願寺川流域における土砂災害を克服してきた先人達の努力・砂防事業等を、児童生徒に学んでもらうため、総合学習等による博物館への来館を積極的に勧誘する。
学芸員等が来館のニーズに応じたきめの細かいガイダンスを行うとともに、学校関係者の来館に際して館情報を入手しやすくするためホームページに専用ページを設ける。
- (2) 解説ボランティアの配置
博物館の展示について、来館者により理解を深めてもらうため、繁忙期の土・日・祝日は、解説ボランティアが館内の展示等に対する説明を行う。
- (3) フィールドウォッチング
 - ①春の立山・雪の大谷 5月10日（日）
「雪の壁」を実際に訪れ、世界的な雪の量を体感しそこに秘められた情報を探る。
 - ②材木坂と美女平 6月28日（日）
立山禅定道である材木坂を美女平までたどり、独特の地質や植物について観察。
 - ③立山の氷河眺望 9月5日（土）
雄山の登山道をたどりながら氷河地形をめぐり日本で唯一の氷河を眺望する。
 - ④室堂山・浄土山とカルデラ展望 9月6日（日）
浄土山への登山道をたどりながら、立山の生い立ちや大地の変遷について観察。
 - ⑤秋の弥陀ヶ原とカルデラ展望 10月3日（土）
弥陀ヶ原を散策しながら、地質地形や動植物、立山カルデラについて観察。
 - ⑥秋の有峰と常願寺川砂防治水探訪 10月18日（日）
常願寺川をたどりながら、断層や動植物、大転石、砂防治水施設等を見学。
 - ⑦立山の雪を体験しよう 1月30日（土）、2月7日（日）
雪について学んでから野外でかんじきハイクをして思いきり雪を体験。

- (4) 特別講演会
土砂災害防止講演会
- (5) 移動博物館
 - ①県民生涯学習カレッジ連携講座の開設
連携講座「魅力満載！立山の見どころまるごと探究！」を開催する。
 - ②市民大学講座、地域公民館等との連携
市民大学や地域公民館等に学芸員が講師として出向き、「立山の雪氷」、「立山火山」、「地震と活断層」、「立山カルデラの動物」などの専門的な解説を実施する。
 - ③立山砂防事務所との連携
立山砂防探検隊、SABO体験楽校 等の実施
 - ④富山県砂防課との連携（土砂災害防止月間イベント）
砂防フェア 2015（6月上旬）、子ども砂防教室（6月上旬～下旬）等の実施
 - ⑤地元団体との連携
立山夏山開き「立山・称名滝の祭典」（7月、立山町）
立山黒部アルペンフェスティバル 2015（9月、県観光課）
とやまスノーピアード立山山麓「雪の祭典」（2月、富山市）等への参加
- (6) サイエンスショーの開催（8月上旬）
- (7) 国際世界遺産セミナーへの協力
- (8) 「博物館だより」等の発行
博物館だより（年3回）、イベントガイド（年1回）、ポスター（年1回）、イベントニュース（毎月）
- (9) 博物館学芸員実習、教職員研修、14歳の挑戦事業 等の受入れ

7 調査研究・資料収集

- (1) 立山連峰で発見された日本で唯一の「氷河」の形成維持機構に関する調査及び他の現存氷河の確認調査
(現状)3箇所での現存氷河の発見及び三ノ窓氷河における20mボーリング調査
(H27)立山連峰の他の現存氷河の有無についての確認調査（内蔵助雪渓、池ノ谷）
御前沢氷河における全層ボーリング調査
- (2) 明治期に常願寺川治水を実施した高田雪太郎技師の史料に関する調査
(現状)寄贈資料のリスト作り、データベース化（全体の半分程度）
(H27)寄贈資料のリスト作り、データベース化（残り半分の完成）
立山カルデラに係る資料の発掘精査

- (3) 立山及び立山カルデラにおける地殻活動、火山活動のモニタリング調査
(現状)地獄谷の噴気活動の変動調査
(H27) 地獄谷の噴気活動の変動調査継続、
新湯の水位・水温変動モニタリング調査
- (4) 立山山岳地域における降水量、積雪分布に関する調査
(現状)立山山岳地域の冬季降水量、積雪量・内部構造調査
(H27)立山山岳地域の年間降水量の把握、積雪量・内部構造調査の継続
- (5) 立山周辺に生息するツキノワグマ等動物の生態調査及び立山カルデラの植生調査
(現状)立山カルデラのツキノワグマの生態調査（バイオリギング調査）
(H27)立山高山域のツキノワグマの生態調査（バイオリギング調査）
立山カルデラの植生調査（植生の変遷比較）

8 外国人対応

- (1) 英語、台湾語による立山の自然や観察ポイントのパネル説明及び映像投影
- (2) ⑨ミュージアムガイドによる台湾語での挨拶等(職員研修実施)
- (3) 英語、台湾語による館内外掲示の充実
- (4) ⑨3D映像の英語、台湾語通訳レシーバーの導入
- (5) ⑨2F常設展示の英語、台湾語等解説タブレットの導入

9 博物館友の会

- (1) 会員参加行事の充実（立山カルデラ砂防体験学習会、類似施設見学会 等）
- (2) 友の会だよりの発行
- (3) ホームページの運用